

2026年度入学試験 解答例・出題趣旨

2月8日 基幹理工・社会理工・先進理工学部共通テスト併用 (数学)

設問	解答・出題趣旨
I	<p>対称式を基本対称式で表す力を土台に、連立方程式の解の個数まで判定できるかを測る。円 C_1 と曲線 C_2 の共有点 (X, Y) に対し $a = X + Y, b = XY$ とおいたとき、$X^2 + Y^2$ と $X^3 + Y^3$ を a と b で表して a の3次方程式を導く。さらに $t^2 - at + b$ の判別式を用い、実数解の存在・個数と共有点の数の対応を理解させる。</p>
II	<p>定数パラメータを含む2次関数の係数対値の $[-1, 1]$ 上の定積分を考へ、それに関する不等式、等式を示す問題を考へる。 <u>不等式</u> については、三角不等式 $A + B \geq A + B$ を使えるかどうか、<u>等式</u> については、置換積分を行えるか、または被積分関数の対称性を知りかどうかが問う。 さらに定数パラメータの範囲を制限して、考へている定積分内の被積分関数の係数対値を外して計算を実行できるかどうかを問う。</p>

2026年度入学試験 解答例・出題趣旨

2月8日 基幹理工・社会理工・先進理工学部共通テスト併用（数学）

設問	解答・出題趣旨
III	<p>多項式に関する漸近式、ε-δ 微分の計算を用いて、関数の増減、最小値の評価、関数値の4乗根を分析することにより、微積分法に関する総合力に関する問題である。</p>